

第2章 20年を振り返って草創期の方と歴代会長の思い出 目次

2-1	1 G 今村 英男さん	2-1
2-2	1期 清水 年子さん	2-5
2-3	2期 林 宏祐さん	2-6
2-4	2期 渋谷 勇さん	2-8
2-5	3期 高木 昭さん	2-10
2-6	3期 黒田 昭さん	2-11
2-7	3期 由解 哲男さん	2-14
2-8	4期 櫻井 輝夫さん	2-15
2-9	5期 吉沢 晴行さん	2-16
2-10	6期 近藤 達也さん	2-17
2-11	会のはじまりと活動体制の経緯	2-19
2-12	草創期の活動記録	
2-12-1	1グループ結成10年の歩み	2-21
2-12-2	2グループ初期の歩み	2-24

第2章 20年を振り返って、草創期の方と歴代会長の思い出

2-1

20周年記念に思う

第1グループ 土・日曜 今村英男

(第1グループ会長：平成6年8月～同11年4月)

「炉端の会」の皆さん創立20周年をむかえ、その活動に対し、川崎市から「文化賞」の受賞おめでとう御座います。最近では会員数が発足時の5倍250名となり活動範囲も古民家の床上公開にとどまらず、園内案内や各種イベントとの協働、さらにはインターネットの「ホームページ」立ち上げによる発信力の強化など、活動基盤の強化充実を図られていることに敬意を表するとともに、民家園のよきパートナーとしてますます発展されることを祈念いたします。

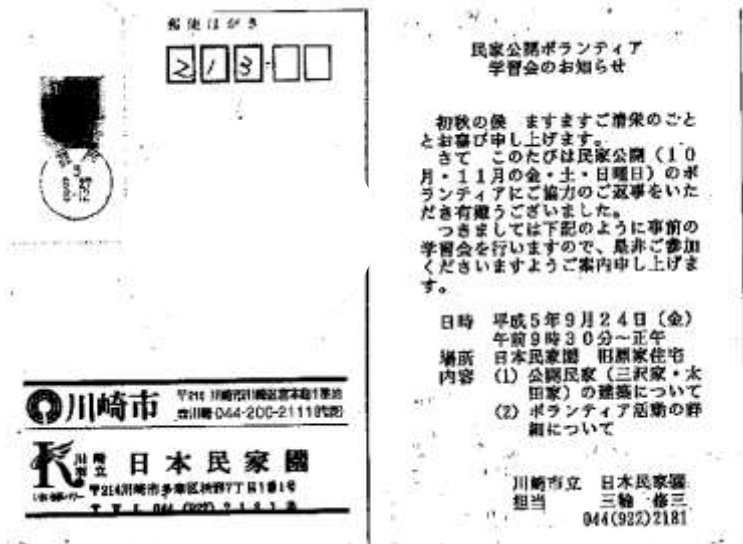
さて、ここからは20年前に遡り、私が民家園のボランティア活動に関わった頃のものを整理し紹介したいと思います。

1 民家園からの1枚の「はがき」からはじまる

「民家公開ボランティア学習会のお知らせ」登戸局平成5年8月27日(消印)は、平成6年8月26日ボランティア「炉端の会」が、原家2階で会員50名により設立総会が開催された日の1年前でした。

こうして見ると前述の「はがき」によるボランティア(以下仮ボランティア)は「炉端の会」発足の準備段階という位置づけになります。参加したのは市の生涯学習事業団と民家園共催の市民アカデミープレ講座「民家—ハレとケのフォーラム」(平成5年5月～7月)終了時、民家園側からボランティアの呼びかけがあり、私を含め14名(男性4名女性10名)がボランティア学習会を受講しました。

以下この講習会終了後の床上公開は次のとおりでした。



- ① 「平成5年秋の民家園祭り」に合わせたの床上公開・平成5年10月1日～同年11月27日17日間毎週金・土・日曜日の3日間（旧三澤家10月・旧太田家11月）
公開日毎に3～4名延76名
- ②雪囲い展示 平成5年12月5日～平成6年3月27日の日曜日
旧山田家・旧菅原家 17日間 公開日毎に2名延34名
- ② 床上公開 平成6年4月17日～同年6月5日の各日曜日 旧三澤家
12日間 公開日毎に2名延24名
なお大型連休中の5月5日が私の当番日（2名）で、「朝から続々と見学者がおとずれ計数器のカウントも2000人を超え、一時は床上が立錐の余地もなく、対応する暇もない状況に、うれしいやら驚くやらの1日でした。
- ④民家園講座応援 平成6年6月11日～同7月9日旧作田家 土曜日7日間
講座受付・資料配布・囲炉裏の火焚き・公開日毎午前・午後各2名延28名

以上のように仮ボランティアによる床上公開は「炉端の会」発足前の1年間に、床上公開延75回活動人員延136人に及び、本格実施時には各班（火～金の4班と土・日の1班計5班）に、これら経験者を配置し、新会員とともに協働し火焚きなどの実務を体得して貰った結果、新組織による床上公開は短期間に定着することができました。

2 「炉端の会」生みの親・職員 三輪修三氏について（平成10年4月館長）

民家園の仮ボランティアから会員50名の「炉端の会」という新組織を立ち上げを積極的に進められ、現在250名を擁する会に発展する基礎固めをされた「炉端の会」の生みの親、民家園職員の三輪修三氏についてご紹介します。

氏は川崎市教育委員会の学芸員として、市域の史跡・文化財の発掘・調査・研究・市史の編纂、また市民ミュージアム・民家園における博物館業務・川崎市民アカデミーの講師（川崎学）のほか、川崎の郷土資料に基づく著作の刊行などにより、幅広く川崎地域史の啓蒙活動をされ、現在も元気で多摩区にお住まいです。

このような豊かな学識ならびに博物館活動の経験をふまえ、「炉端の会」の立ち上げにあたって、会員の小グループの見学会・毎年の団体見学会参加や案内役、ときには飲み会・ケーションへの参加など会員との交流を重ねられ、会員が楽しくボランティア活動に参加する雰囲気づくりに積極的に取り組まれ、そうした気風の定着と会員の努力、さらに炉端の魅力、また民家園全職員のご協力により、和気あいあいの「炉端の会」が誕生したのだと思います。

ここで語るのは、三輪氏に、仕事で当然のことだとお叱り受けることです。しかし当時の全会員の気持ちだと思いましたので、敢えて書くことにいたしました。

た。こうしたなかで、会長として「炉端の会」の誕生の、お手伝いをさせて頂いたことに、いまは感謝の気持ちで一杯です。

以上いろいろと述べましたが、なにか手前味噌的な話になり恐縮しています。

(参考)

のほろろ市政アカデミー
25年度講師紹介

<u>三輪 修三</u>	
肩書：	歴史研究家
経歴：	国学院大学文学部史学科卒業 塩釜神社付属博物館学芸員 川崎市民ミュージアム学芸員 川崎市立日本民家園学芸員、同団長を経て退職 東京都立大学、川崎市立看護短期大学非常勤講師
主な著書：	『東海道川崎宿とその周辺』（文献出版、1995年） 『川崎——歴史と文化』（多摩川新聞社、1995年） 『多摩川——境界の風景』（有隣堂、1988年） 『古刹影向寺』 『日本仏教美術史覚之書』
アカデミーでの出講：	15前期：学び・歩くかわさき（川崎学）講座、歴史（川崎学）講座 10前期：歴史（川崎学）講座 09後期：歴史（川崎学Ⅰ）講座 09前期：歴史（川崎学Ⅰ）講座



1998年（平成10年）1G 京都 平等院見学

3 「炉端の会」名づけの由来など

- ① 平成6年1月21日 園との新年会が開かれ仮ボランティア組織化の話し合いで、名前についてメンバーの高橋さんから一囲炉裏は火があって、はじめて「炉端」になる一との発言で決りました。(国語辞典・ 囲炉裏は火を燃やす装置)
- ② 会員の構成ですが、スタート時50名で男性4:女性6、現在は250名で男性6:女性4と逆転しているようです。年齢は？
- ③ 時期は忘れましたが、囲炉裏の薪が不足し家の廃材を使用したことがあります。そうすると煙や匂いが一変し、床上公開の魅力が半減することを経験しました、やはり薪は、ナラ・クヌギ・ケヤキなどが、炉端にはピッタリだと強く感じました。
- ④ 別添、荒川さん(床上公開活動21年)の「神奈川新聞への寄稿記事・民家の保存手伝い20年」を御覧ください。

以上

■民家園の保存手伝い20年

主婦 荒川 洋子 72 (川崎市)

日本民家園(多摩区)で市民アカデミープレ講座を受講したところ、修了生に野外博物館を守る手伝いをしないかとの呼び掛けがあった。20人近くが快諾。早速活動を始め、「炉端の会」との名称で会を結成したのは20年前の事である。

週1回、古民家の土間や床拭き、いろりにまきをくべ、来客に簡単な説明をする活動だった。一期一会のお客さんのお相手をしているうちに、故郷恋しくなじめなかった川崎に、私はしっかり根を下ろしてしまった。

結成1年目に園では正式な民家園ボランティア養成講座を開催し、会員は50人に膨らんだ。仲間が増えると、個々の趣味や特技、スキルも多彩で活かす道も多く、活動分野は広がった。イベントは来客に喜ばれる居場所、癒しの場となり、博物館は生き返った。

一方、私は仲間にも刺激され活動は枝葉を伸ばし、今や区役所のまちづくり協議会メンバーとしても活躍している。民家園は私のボランティア活動の原点。「炉端の会」会員は250人以上になり、2014年度の川崎市文化賞を受賞した。

神奈川新聞 2015年1月27日 より転載

私が民家園に行き始めたころは、入園無料の時代でした。府中街道から細い道を歩いて入園者の少ない静かな佇まいが好きでした。月日を経て、のちに園長になられた三輪修三先生の構想で炉端と掃除を試して、その後すぐに第一回の講座があり、当時の名簿によると、六十数名で「炉端の会」と名乗って発足しました。私は囲炉裏は生まれて初めて...



上の写真は、三澤家当主と三輪先生（1999/1/19）

三人の学芸員先生の後について三人三様のとても参考になった事でした。

掃除はお手の物ですが、間もなく糠袋も作りました。

研修旅行で最初に伺ったのが「三澤家」。倉の中の古銭を二枚づつポチ袋に修めてお土産に頂いたのには驚きと感激でした。

「岩澤家」と「原家」の解体も見学しました。大好きな「船越の舞台」、一日中一人でガイドをしたことがあります。現在の「炉端の会」の成長と発展、川崎市文化賞受賞、益々の会の皆様のご活躍をお祈りいたします。



「菅原家」の移築と一緒に「民家園」に来たカタクリ、菅原家の入口の右の脇に毎年カタクリの咲くのが楽しみでした。でも年々花の数が少なくなり二輪になってしまっ

て、次の年には咲いてくれませんでした。上の写真は、岩澤家解体の様子（1987/7/7）（寂しかった思い出）

炉端の会「2期」は、平成10年4月「炉端の会」第2グループとして発足しました。第2グループは責任者をリーダーと呼び、第1グループは会長であり、その後の第3グループも会長と称されました。その後の各期も会長でした。

囲炉裏の火焚きの実施日は活動の基準として、火曜日班～金曜日班の各曜日班をA・Bに分けて火曜A班・火曜B班と8班編成とし、各曜日2棟焚きを実施しました。その他各月の(土)(日)の内、1日を活動日として、1ヵ月合計5～6日が火焚き日で、例会日としてプラス1日が民家園に来る日でありました。その他の囲炉裏の火焚き活動日として、ゴールデンウィークと民家園祭り等、民家園行事に協力し増棟した古民家の火焚きをして活動日を増加しました。団体案内は1年経過後に実施を開始しました。

当時、木下職員(現園長)より「民具整理」の手伝いの依頼が有り、1ヵ月5日程度の日程で夏場を中心に2年ほど作業の手伝いを行いました。作業日は例会日に告知され希望者を登録して実施しました。作業内容は各古民家収納民具、品目毎の台帳の照合、梱包整理の実施でした。この「民具整理」の作業の実施で、グループ内の各当日班の理解、交流が深化し以後のグループが円滑化されたと考えます。

例会は各1～3グループ別に曜日を変えて行われました。内容は定例連絡と打ち合わせと学習と称して勉強会が行われました。三輪修三氏が園長であり、直接勉強会を指導されました。三輪園長は「仏教美術」に造詣が深くその道の専門家で、我々も「仏教美術」に興味を持ち、寺院建築様式と仏像の鑑賞等々と合わせて古民家の建築について学習を行いました。

また平成11～12年1月例会で園長持参の「木製」の昔のカルタでカルタ大会が行われ、楽しみました。

例会での学習を通じて第1、第2グループ合同での園外研修会の実施が行われました。研修先として大阪服部緑地の日本民家集落博物館、京都の東寺等々を選定しました。三沢家へも研修先として訪問して、ご当主にお会いして当時の三沢家の様子を語っていただきました。



カルタ大会



三沢家訪問、伊那部宿集合写真

その後の園外研修会は幾多も行われました。関西圏では京都・奈良を重点的に東寺の佛像曼荼羅、新護寺、清水寺、広隆寺、壬生寺等々、西本願寺では御影堂の改修現場の足場の最上階で屋根の傾斜を間近で観察でき、非常に感動しました。その後、奈良の唐招提寺でも平成の大改修が行われており工事現場の研修会が行われ、東大寺南大門、大仏殿、二月堂・三月堂等々研修会が、関東圏でも鎌倉の円覚寺、建長寺、極楽寺、足利のばんな寺、山梨の大善寺、東京国立博物館での「仏教美術」関連の園外研修が行われました。

その延長線上に中国敦煌・西安園外研修会が行われました。

・平成13年5月 中国敦 煌・西安園外研修

西安・大雁塔、陝西歴史博物館、兵馬俑、青龍寺等々。

蘭州・・・・黄河、嘉峪関。

敦煌・・・・莫高窟で5回の見学研修会、玉門関をへて万里長城最西の果てを見学。

・2期 周年行事

平成20年2月 2期 10周年記念園外研修会

奈良、井岡家・・・・井岡家跡地検地、東大寺南大門、大釣鐘、元興寺、大安寺、醍醐寺等々で園外研修。

平成24年4月 2期 15周年記念園外研修会

京都、美山・・・・美山茅葺民家に体験宿泊、伊根舟屋、天橋立周辺等々で園外研修。

(平成26年12月)



大雁塔前集合写真

第二グループ（2期）は、平成10年4月より活動開始しております。今年4月で18年目に入ります。第二Gの新年会も参加メンバーも激減しましたが、実績と経験と意欲でまだまだ頑張りますので宜しくお願い致します。

最初は、何も全く分からず無我夢中でありました。（現在は先輩各位がアドバイスをしてくれますので安心です。しかし、アドバイスには、ガサネタも多くよく確認してから受け入れる事、念の為。）当時は文化財の維持保存が優先していた時期でした。現在は活用を重視して保護する傾向が強くなっております。

因みに、「文化財保護法第一条」では、「この法律は文化財を保存し、且つその活用を図り、もって、国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献する事を目的とする。」とあります。

日本の木造伝統工法で造られた古民家は、適正に維持管理すれば、数百年は維持できると言われております。朽ち果てるのは簡単、維持するのは大変である事を痛感しております。炉端の会で保存活動に携わる事ができ、重い責任を感じると共に生きがいの一つでもあります。（民家は日本の住文化の結晶であり、一度失われると取り戻す事が出来ない。）

また、園外活動も多々行って来ました。三輪先生にガイドをお願いして、奈良を中心に奈良の柳生街道沿いの旧井岡家も含む神社仏閣巡りや、わが国最多の茅葺き民家の残る京都美山町の北山型入母屋造り民家集落と、現在茅葺民家では最も古い民家といわれている重文・石田家住宅（慶安3（1650）年3月11日の墨書）（写真参照）に行きました。その他、伊根町の舟屋の残る漁村等にも行きました。

↓ 石田家住宅見学写真



また、木曜班としても学習会、親睦会、飲み会も兼ねて数知れない程の、園外活動を行ってきました。今後も続けて行ければ良いと思っております。特に、三溪園のガイドスタッフとの意見交換会などは、思い出の一つであります。

祖先が創造し、遺してきた文化財を常に身近に享受できる都市の市民は幸せであります。昭和26年の企画立案から始まって64年、日本民家園も開園から早や50周年が近づいてきました。多くの方々が携わり努力のお陰で市民が誇れる、日本で最大級の民家園に発展しました。さて、今後50年先までどのように維持保存して、後世に継承する事が出来るかを肝に銘じて、50年後に現在我々が行っている炉端の会の活動が高く評価される事を期待して微力ですが楽しみながら頑張りたいと考えて居ります。

今後の課題としては次のような事が考えられます。

- 1) 高度な長期ビジョンを明確に打ち出す事。
- 2) 創造性と自主性を持った強いリーダーシップ。
- 3) 更なるお客様満足度の向上。
- 4) 生田緑地全体の総合プロデュースシステムの推進。
- 5) 今後益々経費の増大が見込まれるので、市民が納得し誇れる運営の継続。

(平成27年1月)

私が、民家園でボランティア活動をするようになったきっかけは、四十年間あまりの勤務から解放され、「サーこれからどうしようか？」家でゴロゴロしているわけにもいかない。そんな折から、妻が区の広報紙の片隅に“ボランティア募集”の記事を見つけ、「これでも行って見たら」の一言でその気になってしまった。決して、社会奉仕とか、世の為人の為とかいう高尚な動機からではなかった。

振り返ってみると、昨年で十五年の月日が流れましたが、こうした永年の活動に従事出来たのは、私を結びつける「三つの要因」がありました。



(写真は平成の大修理)

まず、一つ目は、気持ちの上で徐走をつけてくれた三輪先生の講和であった。毎月、定例会の後半に、日本人の生活文化や宗教、寺社建築棟のお話で興味をそそるものばかりでした。園外の研修では「西本願寺御影堂平成の大改修」を目の当たりにしての解説は思い出深いものがある。工事現場の足場骨組みを十メートルばかり上って見た大屋根の曲線は、スキー場のゲレン

デを思い起こさせるほど大掛かりなものであった。

二つ目は四季折々の風情を肌で感じ採ることが出来ることです。

- 春には、草木が清新の気にあふれ、早朝、小鳥の合唱に迎えられる。
- 夏には、囲炉裏端で涼風を感じ、土間に入ると“ひんやり”とした感触。
- 秋には、彼岸花に旧民家の住人を想い、“すすき”に命のはかなさを憶える。
- 冬には、合掌家に積もる雪景、つるべ落としの夕日を軒下に眺める。

三つ目は、ボランティアの仲間達のほかに、多方面から訪れる多くの人々との出会いがあります。活動の当初の頃は、間違っただけを説明されると困るから、「来園者とあまりしゃべらないように」と指導を受けた時期もありましたが、今では園内ガイドなどで、積極的に民家園をアピールするようになってきています。

私ごとですが、来園者の中で、古民家に大変興味をお持ちの方と遭遇し、京都南丹波の「美山の郷」の話が出た折、私はあそこにはまだ行った事ありません。あそこは、鉄道も幹線道路も無く不便なところと聞いていますが…と云ったところ。「是非行ってみてください、私が車で案内しますから」と云いながら名刺をくださいました。この方は、京都在住で建築事務所勤務の一級建築士の方でした。

こうした出会いも、古民家からの会話が出発点でした。人々の心をなごませ、いにしえの生活文化を伝えるこうした施設は、後世に残していきたいものです。

平成11年第3グループの募集があり、第2グループの応募で抽選に洩れた人、新たに申し込んだ人で6月から養成講座が始まりました。

6月18日から毎週金曜日午前2時間、午後2時間、8日で合計32時間の勉強の後炉端の会に登録されて、基本的には5年間のボランティアとしての活動開始となりました。

講座終了時に、ガイド中心の活動でなく囲炉裏での火焚きが中心の活動と判明してボランティアにならなかった人もいた。結果的に55名が、約10名/曜日の構成となった。

第3グループの募集は、第1グループの方達の5年の年期奉公明けの欠員補充が主眼だったが、退会する方が少なく、第1Gと第3G、第2Gの2グループ構成で、当番棟の割り付けが行われこれに従って活動した。棟の順番はほぼ2週間ごとに変わるが、第1Gが1週間、第3Gが1週間担当した。

炉端の会会員証が、養成講座を全日程受講し、「炉端の会」に登録した人に園長から交付された。平成11年9月1日からで割印があり、会員番号があります。私の場合20番です。

5年間の年期奉公と期間が示されたが、5年経過後なんの通達もなく、なし崩しで継続活動に入った。

平成17年4月に、4期、5期の方々の参加があり、1~3Gのグループ毎の活動でなく、曜日班ごとの活動に変わり、第3グループとしての活動は終了した。グループ名はなくなり期の呼び方に変わりました。

活動

9月から活動開始。最初の当番棟は岩沢家だった。何年たっても思い出します。

担当曜日と土日班の応援で、棟のスケジュールに従って活動した。

火焚きと室内外の清掃がメインで、説明は、聞かれたら答える。わからない事・曖昧なことは説明しない。(学芸員ではないのだから。誤った情報を伝えない。)民家の保全が中心だから、云われたもの以外の什器・民具などには手を触れない。

室内での飲食は不可。屋外も決められたところのみで飲食。

定例会

グループ毎に実施し、グループ内でのつながりは強いものになった。

交通費も、食事代も金銭的報酬は無く、定例会での学習会が、園からの唯一のリターンである。(ボランティア開始時に予算化しなかったもので、前年度並みの予算というしきたりに縛られて金銭面の裏付けのある報酬はできなかった。元三輪園長が残念がっていた。)

曜日班別構成になったところで定例会は一本化された。

従来からの第1G、第2Gでの活動経過から、慣習的にルールが出来ていたにもかかわらず、新規参入・若さの至らなさ・怖いもの知らずで種々の提案を行った。ほとんど実現を見なかった。

心掛けていることは、民家の保全、来園者に楽しいひと時といい思い出を！！

私たちは、民家園から何を学ぶのか？ 民家園に何を提供できるのか？ 毎日が学習です。

年を重ねると、惰性に流れがちですが、皆さんのサポート役に留意します。

民家園のホームページに記載されている日本民家園の使命には、

『 日本民家園は、市民の文化・学術・教育の向上に寄与するため、つぎのを行います。』

1. 主に江戸時代の古民家を移築復原し、良好な状態で後世に伝えます。
2. 古民家・伝統的生活文化にかかわる資料を調査収集し、展示・普及活動を行います。
3. 日本を代表する民家博物館として、国内外に情報を発信します。
4. 生涯学習やくつろぎの場として、地域に親しまれ必要とされる博物館を目指します。』

と書いてあるので、

活動について迷った時は、この使命に戻って考えて行動すればよいのだと思っています。

添付資料：養成講座日程表

木下園長が民俗資料の講義を担当されていました。

2015年2月16日

日本民家園ボランティア養成講座					
日程表					
実施日		午前(10:00~12:00) 内容	午後(13:00~15:00) 内容		
6月	18日(金)	オリエンテーション 園の内容 杉田	園内見学(1)	杉田・中川	
	25日(金)	炉端の会について 杉田	民家について(1)	野呂瀬	
7月	2日(金)	民家について(2) 野呂瀬	民家について(3)	野呂瀬	
	9日(金)	園内見学(1) 三輪・野呂瀬	園内見学(2)	三輪・野呂瀬	
	16日(金)	民家について(4) 三輪	土間・納戸・階段について	三輪	
	23日(金)	炉端の会見学 杉田	民俗資料について	三輪	
	30日(金)	民俗資料について(1) 木下	民俗資料について(2)	木下	
8月	6日(金)	班編成・会員証の交付 杉田	会員との交流会	杉田	
平成11年民家園養成講座資料からの復刻					

発足年度の異なる三つのグループ毎に曜日班を編成して、日本民家園内の国乃至神奈川県指定の重要文化財を多数含む古民家の燻煙・清掃に当たってきた約10年を経て、グループの枠を取り外し炉端の会としてひとつにまとまって曜日班編成をすることとなり、統一後の初代会長を務めることとなりました。

ここまでの約10年日本民家園への来園者数の頭打ちが続いており、貴重な文化財をもっと多くの人達に見学いただき親しんでいただくことを目指して、民家園内部でアイデアを出し合っただ協議・検討されていると耳にしました。

炉端の会が一本化したことで炉端の火焚きにとどまらず幅広い活動の余地ができたこと、また、日常炉端におればこそ来園者の声を直接聞きニーズに応えることが出来ると考え、民家園とひとつになってアイデア・智恵を出し合おうと「民家園協力者会議」に積極的に参加し協議・検討を重ねました。

当時予算の裏付けは期待できず金のかからない、すぐに実行可能なことから順次スタートすることで「園内ガイド」「園内環境整備」「展示品清掃・整備」等のチームが誕生し曜日班の枠を超えた活動の場が出来ました。

従来の曜日班の火焚き活動がタテ糸となり、チームそれぞれの活動がヨコ糸となり炉端の会の一体感が更に強まり以後の会の活動の原形が出来上がりました。

その後も新しいチームの編成があり来園者対象の民家園催事への積極的参加・協力等活動分野は広がっており、これからも益々の発展を期待しています。

炉端の会には、お互いに異なった体験・経歴・技能に優れたメンバーが多数おられ、多岐多数のアイデアの提供をいただき、また、各チームのリーダーとして活動いただき、3年間の会長を大過なく務めることが出来、本当に幸いだったと当時がなつかしく思い出されます。

ボランティア活動はやれる時にやれることをやりがいをもってやるのが大切で、チーム活動、民家園催事への参加・協力は歓迎ですが、園内古民家の燻煙・清掃こそ炉端の会発足以来20年間の一貫したメイン活動であり各自事情の許す限り、誇りを持って長く続けていただくことを期待します。



私が「炉端の会」の四期生（土曜班）として仲間入りしたのは、平成16年の秋でした。そして20年4月に由解さん（金曜班）から会長のバトンを渡され、22年4月に吉沢さん（木曜班）に引き継ぐまでの2年間の一部を、思い出すままに書いてみました。

（研修旅行のおもいで）

毎年11月に行う研修旅行は、平成20年は信州佐久の「佐々木家」と北国街道の宿場「海野宿」でした。（参加者約100名、バス2台、日帰り）

先に寄った海野宿は道の真ん中に用水路が流れ、古い建物の街並みには火災の時、類焼を防ぐための「卯建」を立ち上げた家もあり、宿場町の雰囲気の色濃く残っていました。

佐々木家では、ご当主の佐々木嘉幸氏は、ご高齢ですが大変お元気で、現地の歴史や旧佐々木家住宅について詳しく説明していただきました。

千曲川の河畔には、佐々木家の功績を顕彰するための筆塚の石碑も残っており、ご先祖が代々住民の為の教育等を含め、地元で果たした役割の大きさを実感しました。

翌21年の研修旅行は、房総九十九里浜の「作田家」と南房総市の「旧尾形家と石堂寺」でした。（参加者104名、バス2台、日帰り）

作田家では、ご当主で現在は醸造業を営む作田倉治氏から、民家園へ移築前の旧作田家住宅の立地状態や当時の環境、建物を囲む濠跡の残された一部や池の跡等、現地ならではの話が聞けました。その後、九十九里の浜辺で、地元の歴史研究家で高校の先生が、昔の地引網漁や当時の漁業について詳しく解説してくれました。

南房総市にある石堂寺は、本堂・薬師堂・多宝塔など国指定重要文化財が数ある古刹で、その広い境内に近隣から移築された、旧尾形家住宅（築約280年、茅葺、分棟型で国指定重要文化財）が良い状態で保存されていました。

（かわさきボランティアフェアへ出展）

平成20年秋、市民センターからボランティアフェアの出展案内が届き「炉端の会」として初めて出展しました。

フェアは、川崎市のボランティア団体が活動内容を紹介し、広く知ってもらうのが目的であり、約50団体が参加しました。

われわれの展示内容は、民家園の四季と炉端でのボランティア活動を紹介する写真パネル、炉端のメンバー栗原さん製作の精巧な古民家模型、草バツタの製作実演と配布、牛乳パックの再生利用のコースター配布等でした。

後日主催者から来場者のアンケートの結果、展示内容・やりたいボランティアとともに、民家園の炉端の会が一位だったとの連絡が届きました。

このボランティアフェアへの参加は22年まで3回で終了しましたが、炉端の会が外に向かって行った、ささやかなPR活動であったと思っています。

炉端の会の園外研修は、園内古民家のふるさとを訪ねるという名目で、平成17年から毎年実施された。第5回目までで、近場の日帰りバスツアーで行けるところは行ってしまった。その頃、園外研修は会の日常活動以外では最大の行事であった。

平成22年度の園外研修をどうするか、前年からアンケート調査を企画し行った。古民家のふるさとを訪ねるという趣旨を続けて遠隔地でも泊りがけで行くのか、5年間で新しい会員も増えたので、無理をしないで近くの日帰りで行けるところを再訪するか、はたまた、園内古民家に拘わらず他の適当な研修地を探すのか、会員の意向を伺った。

調査の結果は、行きたい古民家希望順位は、①旧三澤家、②旧鈴木家・旧北村家であった。また、一泊二日になった場合の参加希望者は、参加したいが71.6%、不参加は21.6%だった。気になっていた女性の参加希望は76.9%と多かった。

平成22年4月から園長は木下さんが昇任し、新人の畑山さんが担当となった。また、会の役員も入れ替わり、会員は237名に増えた。

4月の班長会で、行き先を福島県の旧鈴木家に決めた。では宿泊所をどこにするか。参加者の数を確かにして予約しなければならない。会員は中高年者が多い、修学旅行のような雑魚寝は無理だろうから、個室のバス・トイレ付きとすると、費用は高くなるがシティホテルを探した。6月の参加予定者調べで88名と分かり、ホテルはやむなく2カ所になる。個室値段は6,300～6,500円であり、バスチャーター代、昼の弁当代及び夕食代等込みで一人当たり2万円弱でできそうだった。日帰りの場合の5千円より大幅に上がる。なお、バスツアーのため、バスが1台か2台かで費用が大きく変わることになるから、参加者の変動が無いことを祈った。宿やバスの手配などは、成島(火曜班)さんの活躍による。

当日、11月11日は晴れた。ほぼ予定どおりバスは北へ進んだ。参加者80名は皆、小学生のように心はずませていた。福島に入ったら12～13℃と寒く、少し曇まじりだったが、旧八丁目宿では回復し、鈴木さん宅へは宿場道を少し歩いてから訪ねた。

当主の長太郎さん、母上のシゲさん、奥さんらが出迎えてくれ、庭先での明快でおおらかな話は、何だか、こちらが励まされているようだった。はるばる来た甲斐があった。

いよいよ宿泊地の会津若松市へ、夕食は郷土料理を別会場とって、ホテルは2館に別れた。安いビジネスホテルに泊まったことが無い人もいたので、まちがいが起こらないか初めから気になっていた。だが、会員は皆大人である、案ずることはなかった。次の日も好天に恵まれ、一泊二日の園外研修は無事終えた。

ただ、その4カ月後、平成23年3月11日、3月例会の日、東日本大震災が起こった。福島県は原発事故が重なって痛ましいことになってしまった。

(平成26年12月)

私は今年（平成26年）72歳になりました。「炉端の会」には64歳の時に入会して8年目になります。作家五木寛之氏の著書「林住期」によれば、古代インドの人々は人生を100年として25年ずつ4期に区切って考えたといえます。25歳までを「学生期」（がくしょうき）、50歳までを「家住期」（かじゅうき）、75歳までを「林住期」（りんじゅうき）、100歳までを「遊行期」（ゆぎょうき）というのだそうです。そして五木氏は51～75歳の「林住期」こそ「生きるために働くこと」から解放されて「自分のために生きて楽しむこと」ができる人生のクライマックスの時間だから心して生きよ、というのです。今まさに「林住期」にある私にとってやり甲斐のある「炉端の会」の活動はまことに当を得たもののように思います。

さて私ははからずも平成24・25年度の2年間「炉端の会」の会長を務めさせていただきました。会長として会の良き伝統を守りながら時代に合った新しい組織と活動をどう展開するかについてはいろいろ考えるところがありました。特に思いが強かったのは「炉端の会」の発信力を高めることでした。これほど貴重な文化財を集めた「日本民家園」の存在が関東圏でも意外に知られていない、と同時に私たち「炉端の会」の存在も活動も川崎市民にさえ殆ど知られていない、ということは何とも情けないことでありました。この点については副会長の吉田さんと川崎市やいろいろなボランティア団体の会合にも積極的に参加してアピールすることに努めました。また皆さんと相談した結果メンバー全員に名刺を持っていただき、会員としての自覚を持つと同時にいわば広告塔としての役割を担っていただくことにしました。さらに「広報チーム」を



川崎市文化財フォーラムで報告する近藤会長

結成していただき、その結果対外的な発信力を格段に強化することに繋がりました。特にシステムに強い熱心なメンバーのお蔭で素晴らしいホームページを立ち上げていただき、今後の展望が広がりました。

その他「草バッタチーム」も皆さんの提案が実を結びました。また 2 泊 3 日の五箇山と遠野の園外研修も皆さんと企画実行できました。

会長任期の 2 年間、少しではありますが会を前進させることができたような気がします。それもこれも日本民家園と会員の皆さんのご協力があったからこそ、心から感謝しています。

ところで私の「林住期」も残すところ 3 年となりました。とするとその後の「遊行期」は静かに人生の終末に向けての準備を・・・、ということになるのですがこれは古代インドでの話。五木氏は本のなかで「気力と体力があれば、さらに林住期を 10 年延長してもよい」と言ってくれています。囲炉裏の火焚き、古民家の解説、薪割りなど「炉端の会」の活動の喜びは条件付きながらあと 13 年くらいは許されるらしい、ありがたい話であります。同年代の多くの「林住期」の皆さん、どうか安心してまだまだ活動を楽しもうではありませんか。

平成5（1993）年当時民家園では、岩澤家（平成2年移築復原）、原家（平成3年同左）、本館開館（平成4年）を経て移築・新築などが一段落し、博物館のソフト面の充実を図ろうとしていた。また、昭和42年以来順次移築した古民家の日常的な維持が課題となっており、清掃・燻煙による維持（茅屋根の延命舎）と動態展示としての囲炉裏情景再現を目指し、ボランティアを組織したいと考えた。

平成4（1992）年度冬に初めて実施した山田家の雪囲い展示で、平成5年2-3月に「日曜日開放」（囲炉裏の火焚きと解説）を行い好評を得たので、当時職員だった三輪氏が、自身も講師を勤めた講座「民家—ハレとケのフォーラム」受講修了者に声をかけ、平成5年10-11月の民家園まつり期間の金土日に囲炉裏の火焚きと床上公開を始めたのが、会の前段である。さらに同年12-翌3月に雪囲い展示（山田・菅原）期間の日曜、4-6月の日曜でも床上公開を実施した。これらのプレ期間を経て平成6（1994）年8月養成講座を実施し、炉端の会（以下「会」という）が8月末に正式発足した。

会の活動体制は、20年間の前半10年と後半10年とでかなり異なっている。

前半10年の活動は、第1グループ（活動開始平成6（1994）年9月、当初人員50名、翌2月に追加20名）・第2グループ（同平成10（1998）年4月、同51名）・第3グループ（同平成11（1999）年9月、同55名）によって行われた。

曜日班で行う火焚き（当初は1日1-2棟）などの活動・月例会・学習会・自主研修などは基本的にグループ毎に活発に行われた。主な園外研修については、複数グループ成立後は合同で開催された。会長はグループ毎に存在し、平成10年以降の対外的な会長は第1～3の会長で交互に勤めた。

これらの結果、グループ内の交流や学習が深まった一方、他グループとの交流の機会は少なく、日頃の活動における人員の応援・融通や活動ノウハウの共有などが十分できない面があったのではないかと推測される。

加えて、活動内容についても前半10年においては「炉端の会の活動は文化財である建物の維持が最優先で、それ以外は慎重に」という園側の考え方もあって現在に比べると範囲はやや狭いものであった。さらに園が新規募集を約6年実施しなかったため、特に土日を中心に会員が減り活動に支障をきたすようになっていた。

そこで会発足から10年余を経過した平成16・17年度に園と会で相談し活動体制の再編が行われた。

すなわち、①第1～3グループと4期（平成16（2004）年10月活動開始、当初人員22名）・5期（平成17（2005）年4月活動開始、同31名）とを一本化し曜日班は先輩後輩合同に ②月例会を一本化して会の最高意思決定の場とし月例会の補助として班長会を設置 ③会長・副会長は班長・副班長の互選に ④「グループ」は「期」と呼び替える こととした。

新たな会長に由解哲男氏が就任、会則・細則を整え、火曜班（21名）、水曜班（22名）、木曜班（23名）、金曜班（19名）、土日班（51名）ダブリ3名、休会10名の合計143名 となった。

これらの改革により炉端の火焚きだけでなくガイド活動などについても今までより幅広い活動が展開されることとなった。一方、当時の来園者数は伸び悩んでいたため来園者により楽しんでいただく方策が「民家園協力者会議」などで検討された。

会もこれらの検討に積極的に参画し、その結果活動のベースとなる考え方も従来から変化し、来園者に民家を見て、親しみ、楽しんでいただくために何をするかにも重点が置かれることとなった。

来園者のニーズなどをもとに新たな活動として平成18（2006）年1月「障子張り」「環境整備」「英語ガイド」「フリーガイド」の4チーム活動が始動し、曜日班とあわせて活動の場を広げた。

その後チーム活動は、平成19（2007）年4月「展示チーム」、平成24（2012）年5月「広報チーム」、平成26（2014）年3月「草バッタチーム」が発足し現在に至っている。

また、このような活動力増強により民家園の諸行事にも従来にもまして積極的な参画・支援が行えるようになった。また、会則・細則及びマニュアルは順次修正整備されている。

平成17（2005）年から毎年新たな会員20～40名の募集が継続され、平成27（2015）年4月に15期を加えた現在の会員数は265人となっている。

（編集委員 13期 金曜 布野）

2-12

草創期の活動記録

2-12-1

1 グループ結成10年の歩み

- ・ H5(1993). 5~7 民家園と生涯学習事業団との共催講座「民家—ハレとケのフォルム」
(全 12 回) 実施、終了後、講師の三輪職員 (園) からボランティアへの参加呼びかけあり。
- ・ " . 10~11 上記受講者有志により民家園まつり (当時は 10-11 月) の週末に床上公開実施
仮称ボランティアグループ「炉端の会」発足
- ・ " . 12~H6(1994). 3 山田・菅原家の雪囲い展示にあわせ毎日曜に床上公開実施
平行して組織化についてメンバーと民家園で協議 (既存グループ (川崎文化財友の会、多摩文化財愛護ボランティア等) との整合性、民家園との関わり等)
- ・ H6(1994). 7~8 第 1 回ボランティア養成講座開講 (抽選により 50 名受講)
- ・ " . 8. 26 「炉端の会」設立総会
規約決定 会長今村氏 曜日別の班編成 (火一金、土日の 5 班)
第 3 金曜に例会・学習会 任期 5 年 担当は三輪職員 (学芸員)
- ・ " . 9. 1 活動開始、一日 1-2 棟の床上公開
- ・ " . 11 見学研修 影向寺 (高津区)
- ・ H7(1995). 2 会員の二次募集 (土・日対応)
- ・ " . 3 70 名体制による活動開始 土・日の運営円滑化
- ・ " . 5. 19 第 1 期総会 活動状況報告など
- ・ " . 6 見学研修 大善寺 (山梨県)
- ・ " . 6 第 1 回団体案内実施
- ・ " . 10 見学研修 古寺巡礼 (東寺、東大寺など)
- ・ " . 11 民家園まつり参加、日韓民家研究シンポジウム協力
- ・ H8(1996). 2 伊藤家の囲炉裏改修に伴う「火入れ式」に参列



伊藤家の火入れ式

- ・ " . 3 井岡家かまど改修に伴う「火入れ式」に参列
- ・ " . 9 見学研修 近江の国を訪ねて（石山寺他）
- ・ H9(1997). 4 民家園 30 周年記念行事の応援
- ・ " . 9～ 3 周年記念行事として三澤家の裏の花壇整備を実施。
以後毎月作業（～H16.2 まで）
- ・ " . 12 古民家見学バスツアー「彦部家住宅」（桐生市）
- ・ H10(1998). 4 三輪職員 園長就任 炉端の会の顧問に就任 担当は杉田職員に。
第 2 グループ（以下 2 G）発足
- ・ " 平安の仏像を訪ねて（醍醐寺、法界寺、平等院他）



1, 2 G 合同研修 服部緑地の日本民家集落博物館にて

- ・ " . 10 1, 2 G 合同研修 「近江路の観音様、大阪服部緑地など」
- ・ " . 11 任期満了（5 年）後の活動についてアンケート調査
47 名中 40 名が活動を続けると回答
- ・ H11(1999). 1 三澤家現当主の話を聞く会
- ・ " . 4 第 5 期総会 大沢会長に 活動の低下などを受け今後の活動は 1 年
後以降協議することとなる
- ・ " . 5 1～2 G 合同研修（以後合同継続） 伊那部宿を訪ねる研鑽の旅
（三澤家）
- ・ " . 9 第 3 グループ（以下、3 G）活動開始 第 1 G の例会・学習会は第 4
金曜に
- ・ H12(2000). 8 第 6 期総会 活動の一年間継続
- ・ " . 9 見学研修 大和郡山の奈良県立民俗博物館など
- ・ H13(2001). 8 第 7 期総会 活動の 1 年間継続を決定
- ・ " . 10 見学研修 伊豆韮山江川家住宅
- ・ H14(2002). 8 第 8 期総会 活動の一年間継続 10 周年記念行事アンケート

- ・ " . 12 見学研修 彦部家など
- ・ H15(2003). 3 民家園 35 周年記念夜間特別開園に参加（床上公開など）
- ・ " . 5 「市民文化パートナーシップかわさき」より表彰
- ・ " . 8 第 9 期総会 苦しい活動状況が続くが、活動の一年継続を決定
- ・ " . 11 船越の舞台公開 解説ボランティア
- ・ " . 12 園外研修 山本家（茨城県鹿島郡）・鹿嶋神宮など
- ・ H16(2004). 4 第 1 G の今後についてアンケート
継続 16 人 勇退 14 人 休会 5 人 担当は木下職員に。
- ・ " . 7 川崎市制 80 周年記念表彰
- ・ " . 8 第 10 期総会 10 周年を迎え活動の継続を決定 勇退者で O B 会を結成



第 10 期総会

- ・ H17(2005). 4 第 1 ～ 3 G と 4 ～ 5 期を曜日ごとの班に再編成
第 1 G は以後 1 期と名称変更

※園外の見学研修については、主なものを掲載した。詳細は、「第 5 章 学習会の記録」を参照。

※第 1 グループ作成の「10 年の歩み」をベースに民家園だよりや会員の話を入れて作成した。

（編集委員 13 期 金曜 布野）

- 平成9(1997)年12月 民家園でボランティアを募集、募集人数60人
- 10(1998)年1月 1月17日 募集〆切
- 2月 10日より毎週火曜日、全8回のボランティア養成講座が始まる。
51名受講
- 4月 「炉端の会」第2グループ（2期）8班編成（火～金各2班）で活動開始、平日班で土日を分担。第1グループから技術指導を受ける。
第1グループの定例・学習会が毎月第3金曜日に、第2グループの定例・学習会は毎月第3火曜日に決定。
- 5月 炉端の会世話人が三輪園長から杉田浩さんに代り、三輪園長は顧問に。
- 6月 木下さんの指導のもと、民具（衣装・一般）の整理ボランティア開始。5/28～6/11までの計11日間実施。
10月、11月にも11日間実施。
- 7月 「江戸東京たてもの園」に園外研修（木下さん）。27名参加
- 10月 「滋賀近代博物館（近江路の観音様）、大阪服部緑地」他に園外研修（三輪顧問）10/27～28。17名参加
- 11(1999)年1月 三澤家当主を招いて学習会（19日）。
- 3月 第2グループ会員、1年経過して5名休会・退会で46名となる。
- 4月 岡本太郎美術館工事始まり、民家園に通じる道の桜の木が無くなる。
- 5月 「伊那部宿を訪ねる研讃の旅」へ園外研修。5/25～26。
昼神温泉宿泊。40名参加
- 6月 江向家の民具整理（6/2～9）。
鈴木家のかまど完成。作田家の座敷に「万祝」が飾られた。
- 7月～ 第2グループ自主企画研修（3期の一部も参加）
「鎌倉に古寺と中世石塔を訪ねる」、「府中市郷土の森」他。
「三溪園」「影向寺」「大善寺」「清白寺」「鑿阿寺」「正福寺」へ。
- 9月 第3グループ活動開始。55名
作田家から寄贈された「守り札」の祈祷を行う（9/7）。（三輪顧問）
- 10月 民家園企画「むかしの生活体験」にボランティア協力。
第1グループ：大エコース、第2グループ：米コース、
第3グループ：民具コースを担当する。
- 11月 神奈川県立博物館へ園外研修。「源頼朝とゆかりの寺社の名宝」展へ。三輪修三著「日本民家園ノート」発刊。